

医療安全の しおり

安心・安全な医療提供のためのお願い

私たちが安全な医療を提供するには、
医療従事者だけではなく、患者さんや
ご家族の皆様にも協力していただくことが
必要であると考えております。
より安全な医療を提供させて頂くためにも
皆様のご協力をお願いします。



医療安全のしおり 目次

1	不安や疑問は遠慮なくお尋ねください	・・・・・・・・・・1
2	検査結果をご自身でもご確認ください	・・・・・・・・・・1
3	ご本人確認にご協力ください	・・・・・・・・・・1
4	手術・処置・お薬などの治療や検査に関する説明内容をご確認ください	・・・・・・・・・・2
5	手術・処置・検査部位の確認にご協力ください	・・・・・・・・・・2
6	アレルギー（アナフィラキシーショック）予防にご協力ください	・・・・・・・・・・2
7	現在ご使用中のお薬の申告と持参をお願いします	・・・・・・・・・・3
8	医療機器の安全使用にご協力ください	・・・・・・・・・・3
9	転倒・転落予防にご協力ください	・・・・・・・・・・4
10	深部静脈血栓症（エコノミー症候群）予防にご協力ください	・・・・・・・・・・5
	当院では、次のような迷惑行為があった場合診療をお断りする場合があります	・・・・・・・・・・5



1 不安や疑問は遠慮なくお尋ねください

- わかりやすい説明を心がけていますが、私たちの説明内容が分かりにくい場合や医療行為に対して不安を感じる場合もあるかもしれません。安全な医療を提供するためにも遠慮されずに疑問や不安な点を質問してください。
- 治療部位や検査内容に誤りを防ぐためにも、検査や手術の際には十分な確認を行いますが、ご自分がどのような手術や検査を受けるか疑問がある場合には納得できるまでお尋ねください。
- 医師からの説明は、できれば患者さんお一人ではなく、ご家族と一緒に聞きください。



2 検査結果をご自身でもご確認ください

- 入院前、入院中に行なった検査で結果をお聞きになってないものはないでしょうか。ご遠慮なく主治医に検査結果をご確認ください。

3 ご本人確認にご協力ください

- 点滴、採血、レントゲンなどの検査の時は、お名前と生年月日を確認します。
- 外来で診察や検査を行う時、手術室に入室する時はリストバンド、診察カードでお名前を確認します。
- 当院スタッフが患者さんにお名前、生年月日をお尋ねした際は、フルネームでご自身のお名前と生年月日をお答えください。
- 当院ではご入院される全ての患者さんに、氏名を記入した「リストバンド」を着用していただいております。また、点滴等は機械で患者認証を実施させていただきます。安全のためにも昼夜に関わらずリストバンドと点滴ラベルを照合させていただきます。夜間、入眠中でもご協力をお願いいたします。



4 手術・処置・お薬などの治療や検査に関する説明内容をご確認ください

- 手術・処置・お薬などの治療や検査の実施の際は、事前にその内容について説明を行います。
- 実施される内容によっては、合併症や偶発症など生じる場合もあります。
- 治療・検査内容をご理解いただき、実施前の確認をお願いします。

合併症 … ある病気が原因となって起こる別の病気

偶発症 … 手術や検査等の際、偶然に起こった症候あるいは事象で因果関係が不明なもの

- 事前に同意書に署名をいただきます。手術または侵襲を伴う処置・検査では、患者さんだけでなく、説明に立会われたご家族もしくは関係者の署名をお願いします。
- 不安なことや、わからないことがあれば、ご遠慮なくお尋ねください。



5 手術・処置・検査部位の確認にご協力ください

- 手術、検査、処置、点眼薬投与などで左右間違いや部位間違いが起こることを防ぐためにも実施前に、部位の確認をさせていただきます。ご自身も部位の確認をお願いいたします。
- 手術、検査、処置の前に、実施部位に目印をつけさせていただくことがあります。

6 アレルギー（アナフィラキシーショック）予防にご協力ください

患者さんによっては、お薬や食べ物でアレルギーをおこす場合があります。以下のような経験をされたことがある方は、医師・看護師・薬剤師にお伝えください。

- 食べ物でアレルギーをおこした経験のある方
- お薬による副作用（かゆみや発疹など）がでた経験がある方
- 検査時の造影剤などで、かゆみ、顔のほてり、めまい、はき気などの症状の経験がある方
- アレルギー体質のご家族（両親・兄弟など）がいる方



お伝えいただいた情報をもとに、安全に食事やお薬の提供に細心の注意をいたしますが、**患者さんご自身でも配膳された食事やお薬についてご確認ください。**

7 現在ご使用中のお薬の申告と持参をお願いします

- 入院中に使用するお薬との飲み合わせや治療・処置に影響するお薬がないかなどを確認いたします。
- 他科や他の病院から処方されているお薬やご自分で購入されて飲んでいるお薬、健康食品、サプリメントなどがありましたらお持ちください。
- 飲んでいるお薬の名前などが書いてある、『お薬手帳』や『説明書』がありましたらお持ちください。
- お薬の飲み方について、普段から注意されていることがありましたらお伝えください。
- 血液をサラサラにするお薬やサプリメント、糖尿病のお薬、経口避妊薬など事前に中止しないと検査や手術が受けられないお薬や、サプリメントがあります。検査や手術を予定されている方は、外来で医師・看護師・薬剤師に必ずご相談ください。



持参する薬や入院中も薬は、*PTPシートを切り離さないでください。包装されたまま飲み込む危険性があります。

*PTPシート：薬剤をプラスチックやアルミ等で貼り合わせて包装したもの

PTPシート⇒



8 医療機器の安全使用にご協力ください

病院内では、検査や治療に様々な医療機器が使用されています。また、医療機器を体内に埋め込まれている患者さんもいらっしゃいます。院内での医療機器の誤作動防止にご協力ください。

- 携帯電話により医療機器が誤作動を起こすことがあります。決められた場所で使用するようにご協力をお願いします。
- ペースメーカーや埋め込み式除細動器など医療機器を使用されている方は、検査や治療により誤作動を起こす場合がありますので、必ずお知らせください。
- 使用中の医療機器に異常や異音を感じたときには、直ちに医療スタッフへお知らせください。
- 装飾品、過度な化粧（マニキュア、ネイルアート、つけまつげ等）などがMRIや内視鏡検査、治療の妨げになることがありますので、必ず除去してください。



9 転倒・転落予防にご協力ください

入院中は、不慣れな環境や病状の変化などにより、筋力や注意力が低下し、思いがけず転んでしまうことがあります。高齢の方は特に注意が必要です。歩行中の転倒やベッドや椅子からの転落には十分ご注意ください。

1) 入院の際に準備するもので注意していただきたいこと

- スリッパやゴム製サンダルはさける
- メガネは普段使用しているものを使用する
- 寝巻きやパジャマは体にあった長さにする



2) 転ぶ原因は・・・

①環境の変化

- #### ②症状による身体の変化
- 手術や治療による影響
 - 貧血や発熱など
 - 下肢の筋力の低下

③痛み止めや睡眠薬の影響



3) 転倒・転落を防ぐためのお願い

<ベッドサイドで気をつけること>

- 立ち上がる前にベッドに座った状態で足に力が入るか確認してから動き出す
- 点滴スタンドやオーバーテーブルなど不安定な物につかまらない（動くので支えにならない）
- ソファやベッドの上で立ち上がらない
- ベッド柵を上げて寝る
- 遠慮せずに看護師を呼ぶ（ナースコール）



<トイレで気をつけること>

- 手すりにつかまる
- トイレが終わったら立ち上がる前にナースコールで看護師を呼ぶ

4) 転倒・転落をおこすと・・・

- 転倒・転落をおこすと切り傷・打撲にとどまらず出血や骨折など本来の病気以外に新たな治療が必要になったり、入院期間が長くなる場合があります
- ご家族に連絡させていただくことがあります。



10 深部静脈血栓症（エコノミー症候群）予防にご協力ください

- 手術や治療のためベッドで寝たきりの状態が続くと、足から戻ってくる血液の流れが悪くなり、血のかたまり（血栓）が出来やすくなります。血栓が肺へ流れていくと肺の血管を詰まらせ（肺塞栓）胸痛や呼吸困難などの重い症状をおこすことがあります。
- 過去に深部静脈血栓症と診断されたことがある患者さんは、必ずお知らせください。
- 手術を受ける患者さんには血栓症予防ストッキングを使用して頂きます。
- 手術後に、圧迫ポンプを使用する場合があります。ベッド上でできる下肢の血栓形成予防運動を行きましょう。



当院では、次のような迷惑行為があった場合 診療をお断りする場合があります

患者さんの安全を守り診療を円滑に行うとともに、治療に専念できる環境を提供するためにも、何卒ご理解のほどお願いします。



1. 他の患者さんや職員にセクシャルハラスメントや暴力行為があった場合、もしくはそのおそれが強い場合
2. 大声、暴言または脅迫的な言動により、他の患者さんに迷惑を及ぼすような行為、あるいは職員の業務を妨げた場合
3. 飲酒や喫煙、無断離院などの禁止行為を行った場合
4. 解決しがたい要求を繰り返し行い、病院業務を妨げた場合
5. 建物設備等を故意に破損した場合
6. 受診や入院に必要なでない危険な物品（ナイフ、包丁、はさみなどの刃物類、ライター、マッチなどの発火物質など）を院内に持ち込んだ場合



医療相談窓口

1階80番 患者支援センター内
看護師、医療ソーシャルワーカーが
ご支援させていただきます
医療安全に関することは、医療安全の
担当者が対応いたします

がん相談支援センター

1階55番 正面玄関横
がん専門相談員が対応いたします